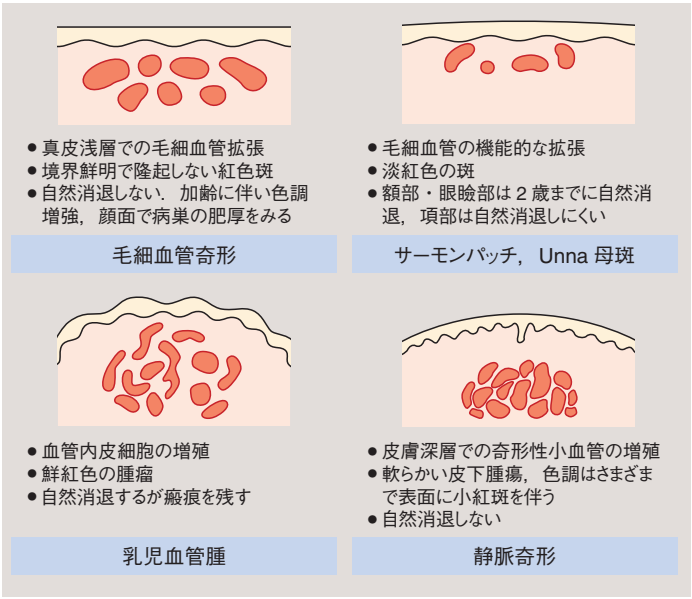

図 21.38　血管腫の分類

図 21.39　老人性血管腫（senile angioma，cherry angioma）

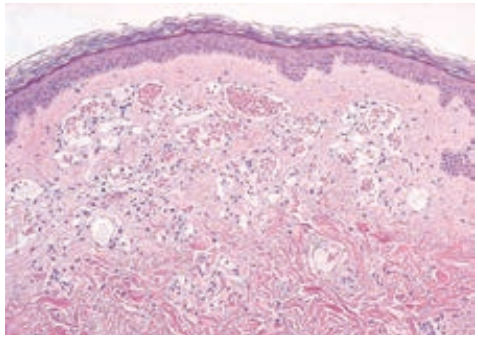

図 21.40　老人性血管腫の病理組織像

図 21.41①　化膿性肉芽腫（pyogenic granuloma）
有茎性の鮮紅色から暗赤色の軟らかい腫瘤．

る．とくに生後 6 か月を過ぎても増大して潰瘍をつくるものや口唇に生じたもの，眼瞼に生じて視野障害を起こすものなどに対しては積極的な治療が必要である．プロプラノロール内服，ステロイド全身投与などが考慮される．

2．老人性血管腫　senile angioma，cherry angioma

鮮紅色の光沢のある点状の紅色丘疹が，体幹に多発する．20 歳代からみられるが，加齢とともに増加する．反応性の血管増殖が原因と考えられており，病理組織学的に真皮乳頭下層に毛細血管の限局性の増殖がみられる（**図 21.39**，**21.40**）．

3．化膿性肉芽腫（にくげ）　pyogenic granuloma；PG　★

同義語：毛細血管拡張性肉芽腫（telangiectatic granuloma）

症状

外傷などが誘因となって生じた，毛細血管の増殖と血管腔の拡張を主体とした血管腫の一種．直径数 mm ～ 2 cm の半球状に隆起した有茎性で鮮紅色から暗赤色の軟らかい腫瘤（**図 21.41**）．外傷により容易に出血，潰瘍を形成する．新生児では臍部に生じることが多い〔臍肉芽腫（umbilical granuloma）〕．

POEMS 症候群　MEMO

小児の場合は顔面に，成人では体幹や四肢に好発する．急速に出現し，びらんを形成して出血するので，無色素性悪性黒色腫などの悪性腫瘍との鑑別を要する．

病理所見

二次的炎症性肉芽腫を伴う血管腫，あるいは血管腫構造を伴わない肉芽腫などの像を呈する．

治療

凍結療法，硝酸銀塗布，炭酸ガスレーザー療法や外科的切除を行う．ステロイド外用が有効なこともある．

4. 糸球体様血管腫　glomeruloid hemangioma

POEMS 症候群（MEMO 参照）患者の約半数にみられる 1 cm 以下の血管腫（**図 21.42**）．血管増生が生じ，血管増殖因子や血中エストロゲンの上昇などがみられる．臨床的には老人性血管腫に類似するが，10 ～ 20 歳代の患者に急に多発し，頭頸部など体幹や四肢以外にも発生する．老人性血管腫に比して淡い紅色調で，指圧では圧排できないドーム状の結節を呈する．

5. Kasabach-Merritt（カサバッハ メリット）症候群　★
Kasabach-Merritt syndrome

症状

巨大血管腫・血小板減少・全身性紫斑がみられる症候群．皮下の硬結として生下時または生後 3 か月までに初発することが多い（**図 21.43**）．急速に増大，出血して血管腫全体が暗赤，紫色の巨大な腫瘤になる．多量の血小板が消耗される結果，浮腫，小出血，全身の紫斑，出血傾向をきたす．血液凝固因子異常や血小板減少が持続すると DIC を生じる．

図 21.41②　化膿性肉芽腫（pyogenic granuloma）

図 21.42　糸球体様血管腫（glomeruloid hemangioma）

図 21.43　Kasabach-Merritt 症候群（Kasabach-Merritt syndrome）
左下肢の巨大な血管腫．